

放射線医学総合研究所と島津製作所、浜松ホトニクス、日立化成、千葉大学などの研究チームは十六日、マウスなど実験用小動物の

PET用検出器

体内を詳細に撮影できる陽電子放射断層撮影装置（PET）用検出器を開発したと発表した。解像度は一・五ミリ、生体内の状況を詳

解像度1.5ミリ／感度5倍

小動物の体内を撮影

しく調べられるため、病気の仕組みの解明や新薬の開発に役立つという。

開発したのは、縦横一・四ミリ、高さ四・五ミリの微小放射線検出器。容積は従来の五分の一以下。四層に積み重ねてPETに利用すれば解像度が従来の三ミリから一・五ミリになり、感度も五倍以上に向上する。小動物の観察に必要な性能を

放医研や島津が開発

ほぼ実現できる見込みだ。放医研と島津などが協力し、マウスなど実験動物用PETとして二〇〇八年度ごろの実用化を目指す。マウスの体内を時間経過とともに観察することができれば、疾病の仕組みの解明などにつながり、新薬開発が促されるとみられており、研究チームは開発した検出器に期待をかけている。